第17回和歌山支部学術集会

学術集会会長：和歌山ろうさい病院病院長　南條 輝志男

日本医療マネジメント学会第17回和歌山支部学術集会が、2023年２月４日(土)、和歌山市の宝塚医療大学和歌山保健医療学部にて開催され、160名を超える参加がありました。今回の学術集会では「公と個のマネジメント～和歌山県の目指すべき医療を考える～」をメインテーマとし、公と個との連携の重要性を意識した発表が行われました。特別講演では和歌山県立医大リハビリテーション医学講座教授の田島文博先生に「活動性を育む攻めのリハビリテーション医療マネジメント～チーム医療と多職種連携の極意～」についてご講演いただきました。また、シンポジウムでは新型コロナウイルス感染症対策として和歌山モデルを構築したことで有名な和歌山県福祉保健部技監 野尻孝子先生に基調講演をいただき、各医療機関で活躍されている各職種の先生方にシンポジストをお願いしました。開催にあたり多大なご支援とご協力を賜りました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

第15回宮崎県支部学術集会

学術集会会長：宮崎東病院名誉院長　塩屋敬一

会場風景

２023年２月４日(土)宮崎市AZM(アズム)ホールを会場に「コロナ禍からの脱却を見すえて」と題して県支部学術集会を行いました。前大会がコロナ禍で１年延期されたことなどを受け、コロナ禍の克服を目指したいとの強い思いで実施しました。来賓の宮崎市長から市の祭り再開の苦労話、国立病院機構理事 長谷川 好規先生の基調講演は新型コロナウイルス遺伝子の特徴、感染症の歴史、対策など幅広い骨太の話があり、その後の講演では影響を受けた難病法、病院運営、児童精神科の経緯が披露されました。一般演題数は44題、最終参加者171名でコロナ禍としては十分な参加数であったと考えています。参加者の感想も良好でした。新たな試みとして「選択一般演題」という枠で発表者の表彰を行ないました。最後にコロナワクチンに関する演題を議論して終了しました。

第23回大分県支部学術集会

学術集会会長：大分県立病院院長　佐藤昌司

新型コロナウイルス感染症の収束が見いだせない中、昨年に続きWeb形式により、2023年２月11日(土)に大分県立病院の講堂において第23回大分県支部学術集会を開催いたしました。各病院でも喫緊の課題となっている「医療従事者の時間外労働制限への取り組み」をメインテーマとして、41医療施設から98名の参加をいただきました。佐久総合病院・佐久医療センターの西澤延宏先生から「働きがいのある働き方改革に向けて－PFMの導入－」と題して特別講演をしていただき、入退院におけるPFM導入により患者へは安全で良質な医療を提供し、タスクシフトをしたうえで職員には自立した働き方ができることによるモチベーションアップという、本来の働き方改革とは何かをご教示いただきました。また、シンポジウムでは、大分三愛メディカルセンターの三島康典先生から宿日直許可申請の経験や、西田病院の江藤芳浩先生からは日本診療放射線技師会の副会長という立場からタスクシフトの業務拡大と課題について報告をいただくなど、４名のパネリストから講演をいただきました。

最後に、開催にあたりご支援とご協力をいただきました関係各位の皆様に心から感謝申し上げます。

第19回佐賀支部学術集会

学術集会会長：特定医療法人静便堂白石共立病院院長　池田裕次

2023年２月18日(土)に日本医療マネジメント学会第19回佐賀支部学術集会を執り行いました。昨年度の学術集会と同様に、新型コロナ感染症の流行を鑑み、Zoomウェビナーを用いたオンライン形式での開催となりました。

少子高齢化に伴う人口減少、国内の医療費問題、新型コロナウィルスの流行など医療を取り巻く環境に大きな変革を余儀なくされている現状のなか、今学術集会のメインテーマを『持続可能な医療マネジメント』と題しました。学会会員および県内の病院に呼び掛けし、例年と同様の20題の一般演題を発表していただく事ができました。病院業務がひっ迫した中でも多くの施設からご参加をいただき、深く感謝いたします。

反面、会当日に視聴いただいた件数は、LOGから確認して45件と想定していた視聴者数に届かず、開催をお世話する身として事前のご案内が少なかったなど、